

長中魂



平成29年9月14日(木)

第18号

伊豆の国市立長岡中学校だより
文責 守野 和弘

H29年度 全国学力学習状況調査の結果を受けて

4月に3年生が行った「全国学力・学習状況調査」の主な結果についてお知らせいたします。表は、本校と県、全国の平均正答率を比較した結果です。

【県・全国平均を上回っていれば◎、同じならば○、若干下回っていれば△、下回っていれば▲】

科目	県平均比較	全国平均比較
国語A (主として知識)	△	○
国語B (主として活用)	○	◎
数学A (主として知識)	△	○
数学B (主として活用)	▲	△

全国平均と比較すると、国語Bは上回り、国語A・数学Aは同じで、数学Bが若干下回りました。県平均と比較すると、国語Bはほぼ同じで、国語A、数学Aは若干下回り、数学Bがある程度下回りました。大きく見れば、国語A・B、数学Aについては全国平均以上、県平均以下であるものの、数学Bは、県と全国平均以下という結果となりました。結果の分析は以下で示し、それに基づいて改善を図っていききたいと思います。

全国学力状況調査から見て取れるのは、4月時点における学力の一部であり、また、本調査に取り組んだ一人一人の生徒に成果と課題が存在します。この結果に一喜一憂することなく、今後も地道に生徒一人一人の「確かな学力の育成」に努めていきます。



<国語の分析>

「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する」ことや、「書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書き直す」ことなどの「書<能力・読む能力>」については全般的に良好である。その一方で、「話の構成や展開などに注意して聞く」ことや、「分かった事実とそれについての自分の考えの構成を工夫して話す」ことなどの「話す・聞く能力」については全般的にやや不足している。また、「言語についての知識・理解・技能」のうち、「文脈に即して漢字を正しく書くこと・読むこと」はたいへん優れている一方で、「楷書と行書の違い」の理解、古典には「随筆、物語、和歌などさまざまな種類がある」ことなどの基本的知識に、定着していない部分が見られた。

<数学の分析>

「数学的な技能」として、「加減乗除を含む正の数と負の数の計算が、計算のきまりにしたがってできる」、「簡単な一元一次方程式を解くことができる」など、基本的な計算力は定着している一方で、「与えられた文字式で表される場面を読み取る」、「比例のグラフからx、yの式を求める」などの活用がややできていない。また、「数量や図形などについての知識・理解」として、図形では「証明で用いられている三角形の合同条件の理解」や「四角形が、いつでも平行四辺形になるための条件の理解」、数量では「一次関数の表における変化の割合の理解」などがやや不足している。さらに、「数学的な見方や考え方」では、「筋道を立てて証明すること」や「与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500m³になるまでの日数を求める方法を説明する」など、事象を数学的に解釈して問題解決するなどの活用ができていない。



【今後の取り組みについて】

<国語> ディスカッションを取り入れた授業の中で「話の構成に注意して聞くこと」や「自分の考えの構成を工夫して話すこと」などの能力を伸ばす機会をつくる。書写や古典の単元の中で字体や文学的ジャンルの知識の押さえをする。

<数学> 思考力、判断力、表現力等の能力を育み、活用力を身に付けるため、単元の中で、実生活や具体的事象との結びつきのある学習課題を提示して、興味を喚起し、自ら問題解決していく授業を展開していく。図形では、基本的な図形の性質を確実に理解し、定着を図る。さらに証明では、仮定と結論を明確に記述させ、図形の基本的な性質をどのように活用して解けばよいか見通しをもち、丁寧に行っていくようにする。また、個に応じた支援を強化する。

生徒質問紙の回答状況について

【県・全国平均を上回っていれば◎、同じならば○、若干下回っていれば△、下回っていれば▲】

項目	県平均比較	全国平均比較
国語への関心等	△	○
数学への関心等	○	○
総合的な学習の時間への関心等	○	◎
規範意識	◎	◎
自尊感情	◎	◎
言語活動・読解力	○	○
生活習慣	△	△
学習習慣	○	○

【分析と今後の取り組みについて】

「自分にはよいところがある」、「学校に行くのが楽しい」、「学校で友だちと会うのは楽しい」、「学校で好きな教科がある」、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と答えた生徒が多く、「**自尊感情**」が、全国平均、県平均のどちらにも上回っている。年間を通じて、激励会やかつらぎ祭、3年生を送る会などの学校行事に熱心に取り組み、地域においてもソーランや長中太鼓、鶴踊りなどで活躍の場面があり、やり遂げた達成感を味わったり、教員や保護者、地域の方から認められたりした経験が多いことが自尊感情を高めている要因と思われる。



「**規範意識**」については、「学校の規則を守っている」、「友だちとの約束を守っている」と答えた生徒の割合は全国平均、県平均とほぼ同じで、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」生徒は全国平均、県平均よりもとても多い。これは、「長中魂」の「た・ま・し・い」を意識して生活していることが大きな理由であると考えられる。また、「2年生のとき

に受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいた」と答えた生徒も全国平均、県平均よりも多く、道徳の授業が充実したものであったことも要因の一つと思われる。今後も道徳教育の充実及び「長中魂」を心の支柱とする生徒会であるように支援したい。

一方で、「**生活習慣**」については、「朝食を毎日食べている」、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と答える生徒が全国平均、県平均よりも少ない。さらに、「普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（PC、携帯型、携帯電話、スマートフォンのゲームも含む）をしますか」、「普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の質問に対し、どちらも、あくまでも4月の段階ですがほぼ5人に1人が4時間以上と答えていた。これは全国平均、県平均を大きく上回っている。各ご家庭での生徒の生活のしかたについて、よりよいものとなるように保護者の皆さまと連携していきたい。



「**学習習慣**」については、「普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」については、県平均、全国平均よりも長い時間、家庭学習や塾での学習に取り組んでいる生徒の割合が多く、土曜日、日曜日においても同様なことが言える。「家で、宿題をしている」と答える生徒の割合も、県、全国平均よりも多いが、「家で、自分で計画を立てて勉強している」と答える生徒の割合は、県、全国平均を下回る。より主体的な学習の取り組みとなるように指導したい。



2年生のときの「**授業**」については、「先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた」や「自分から考えを発表する機会が与えられていた」、「話し合う活動をよく行っていた」などは、県、全国平均とほぼ同様である。一方で、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた」、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫してうまく発表していた」、「話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた」、「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」、「授業ノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた」と答える生徒の割合は、県、全国平均を下回っていた。現行学習指導要領で重視されている「言語活動の充実」、新学習指導要領で重視されている「主体的で対話的な深い学び」という点で、課題が残る。校内研修をより充実させ、授業改善をさらに進めていきたい。